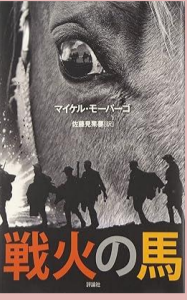


幕を開けた2026年、令和8年をどのような年にしたいですか？干支は『丙午』、人間万事塞翁が馬の精神で前向きに進んでいく良き一年となりますように！

干支本特集

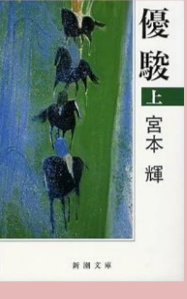
今年の干支の馬を題材にした小説を特集してみました。馬は古くから人とともに生き、移動手段や労働力としてだけでなく、文化や物語の中でも重要な存在として描かれてきました。小説の世界においても、馬は単なる動物としてではなく、友情や忠誠心、喪失、再生といった人間の感情を映し出す象徴として登場することがあります。



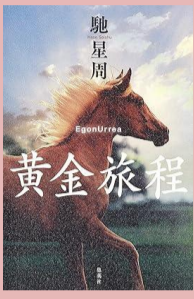
『戦火の馬』マイケルモーパゴ著
英国の貧しい農家で、少年アルパートに愛情深く育てられた美しい馬、ジョーイ。だが第一次世界大戦が勃発し、愛馬ジョーイは軍馬として騎馬隊に売られ、フランスの戦地に送られてしまう。敵味方の区別を知らないジョーイの目に、戦争は愚かさと悲惨なものとして映るだけだった。



『私の馬』川村元気著
船所で事務員として働く優子は、通勤途中の国道で、馬運車から逃げ出した元競走馬と運命的な出会いを果たす。「彼」の名はストラダ。乗馬クラブで「彼」に跨った優子は、誰よりも「彼」と心を通わせる感覚を味わい、その馬にのめり込んでいく。



『優駿』宮本輝著
生れる仔馬が牡馬でありますように。風の申し子のように速く、嵐みだいに烈しく、名馬の天命をたずさえて生れますように。若者の祈りにこたえて、北海道の小さな牧場に、一頭のサラブレッドが誕生した。オラシオン（祈り）と名づけられた仔馬は、緑と光の原野のなかで育ち、順調に競走馬への道を歩みはじめる。



『黄金旅程』馳星周著
装蹄師の平野敬は北海道の浦河で養老牧場を営んでいる。敬が注目するのは栗毛牧場生産の尾花栗毛馬・エゴンウレア。だが気性が荒く、プライドも高い馬で調教に手を焼いていて、今まで勝ち鞍がない。エゴンに人生を託した人々の想いは、二勝馬脱却への奇跡を呼び起こせるのか。

第174回 直木三十五賞

第174回『カフェーの帰り道』が、直木三十五賞を受賞しました。受賞者の嶋津輝さんの作品は登場人物自身が語ることで、日常の奥にある感情を丁寧に描いている物語が多いようです。静かな物語を求める読者に向けて、寄り添ってくれる作品です。



嶋津輝（しまづてる）
1969年7月13日生まれ（56歳）
出身地：東京都荒川区
学歴：日本大学法学部卒業
職業：小説家
デビュー：2016年に短編『姉ともうと』で第96回オール読物新人賞を受賞
主な受賞歴：
第96回オール読物新人賞（2016年）
第170回直木賞候補（2023年）『響がけの二人』
第174回直木賞受賞（2026年）『カフェーの帰り道』



『カフェーの帰り道』嶋津輝著
大正から昭和にかけて、時代を映す鏡であったカフェーの女給という職業。そんな彼女たちが働く、東京・上野の片隅にある、あまり流行っていない「カフェー西行」。食堂や喫茶も兼ねた近隣住民の憩いの場には、客をもてなす個性豊かな女給がいた。竹久夢二風の化粧で注目を集めるタイ子、小説修業が上手いかわず焦るセイ、嘘つきだが面倒見のいい美登里を、大胆な嘘で驚かせる年上の新米・園子。彼女たちは「西行」で朗らかに働き、それぞれの道を見つけて去って行った。女給として働いた「百年前のわたしたちの物語」。

図書館イベント報告 校内ビブリオバトル決勝戦

今年度のビブリオバトルは予選会を行い、勝ち抜いた5人のパトラーで決勝戦を行いました。予選会は観覧を設けずにパトラーのみで行いました。初めて会う人もいる中で、和やかな自己紹介から始まり、推し本の紹介や感想を本好きの参加者それぞれが聞き入っている姿が印象的でした。

昼休みや放課後に予選を行いました。大勢の参加者が、真面目に取り組んでくれた姿に感動しました。本当に全員をパトラーとして紹介したいと思いました。参加者の皆さん、ありがとうございました。図書委員長 23HR池谷啓汰



決勝出場者

- 1 1 HR安戸瑠依君 1 1 HR藤田翔也君
- 1 8 HR伊藤輝正君 2 1 HR松本旺芽君

5名で行われた決勝戦には、大勢のオーディエンスが参加し対戦を真剣に見守りました。参加パトラーによる推し本のプレゼンを受けて図書委員は各二票ずつ投票しました。多くの票を集めた2 1 HR松本旺芽君の『ヒアカムズサン』（有川浩著）が今年度のビブリオバトルのチャンプ本になりました。



「人の本の感想を聞く。」「自分が詠んだ本の感想を話す。」ビブリオバトルはそれだけではつまらない。言うなれば『押しを語る。』くらい面白い。白熱し共感しあったり、盲点を狙って目を点にしたり、押しを語ることは読書の昇華になる。今回の決勝戦では、敵ながらあっぱれのパトラー達と対戦できて本当に楽しかった。2 1 HR松本旺芽

新春 本の福袋

新春恒例の本の福袋がウィンドウ展示に並びました。どんな本が入ってるのか、お楽しみです。図書委員が選んだ福を呼んでくれる本が二冊入っています。

自分で本を選んでみると、結局借りないことが多いです。福袋で中身が分からないと、気軽な気持ちで借りれました。

18HR鈴木誠也



もらえるの？返さなくていいの？と、勘違いしましたが普通に一週間の貸出し後、返却するそうです！でも何故か得した気分になれます。

1 8 HR和田凌騎

NHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」

今年大河ドラマの主人公は豊臣秀長です。一年間じっくりと描かれる主人公についての本を集めてコーナーにしてみました。どんな時代を生きたのか？何を成し遂げたのか？興味を持つきっかけにしてみてください。



『豊臣秀長』堺屋太一著
豊臣秀吉の3歳違いの弟・秀長は、自らの働きを誇ることなく、偉ぶることもなく、常に脇役に徹した、まれにみる有能な「補佐役」であったといえる。秀長は人柄がよく、様々な実務に抜群の才があったばかりではなく、いくさでも負けを知らなかった。自ら一流の判断力と軍事能力を持ちつつ、それを200%、兄秀吉の出世と成功に注ぎ込む一人の男、豊臣秀長の姿が、浮かび上がってくる。



『豊臣兄弟 天下を獲った処世術』磯田道史著
豊臣ブラザーズは永続して貴族になったファミリーの生まれではないにもかかわらず、彼らは巧みに天下を獲った。この国にあって、どのような生き方をすれば、いかなる性格を持てれば、このような出世の階段を駆け上がることが可能なのか。歴史家としての著者が、この謎を解き明かして、世間の目にさらしたい衝動に駆られてまとめた一冊。



『兄弟天下』 養輪 諒著
越前・朝倉軍からの撤退を続ける織田軍の殿に二人の兄弟がいた。大軍が迫る中、言葉巧みに兵の士気を上げる兄・秀吉を、弟・秀長は冷静に見つめ、覚悟を新にする。この兄を信じ、村を出た。敵が誰でも俺は兄について行きたい。信長が倒れ、柴田勝家、徳川家康を下すと、兄弟の前には天下への道が拓かれてゆく。"天下の執政、豊臣秀長の生涯を描く歴史小説。"

3年生の図書館利用について

3年生の皆さんは、入学当初より学年全体で活発に図書館を利用してくれました。学年独自の読書企画を行うなど積極的に読書に取り組んでいて、特にビブリオバトル1年生大会の時には、全員が参加して一冊を真剣に選び、自分らしく本を紹介しあう姿が印象的でした。また清掃担当の3 2 HRの皆さんは、たくさんある窓を丁寧に拭いたり、床についたシミを根気よく落としてくれたり図書館を気持ちよく使える環境を作ってくれました。学年主任の河西あずさ先生をはじめとして、本に詳しく自ら読書する先生方が多くいらっしゃいました。放課後の学習利用の際には椅子の整理や、戸締りを担当してくださっていました。そんな先生方の姿を生徒の皆さんが見習っていたように感じます。3年生の皆さんが、卒業後もたくさんの本に出会えるように願っております。

～多読書の皆さん～

38HR	田中 彩瑛さん	102冊
31HR	水野 結良里さん	56冊
38HR	田口 ほのかさん	28冊
38HR	山村 旭陽くん	28冊
33HR	伊藤 侑夏さん	20冊
31HR	中村 りんさん	20冊
37HR	縣 樟馬くん	19冊
31HR	中村 瑞葉さん	18冊
32HR	嶋津 快都くん	18冊
31HR	山下 萌衣さん	17冊

・最終貸出日・・・1月30日（金）・最終返却日・・・2月10日（火）